

第5 回東日本大震災子ども支援意見交換

「学習支援」を中心とした取り組みについて

東日本大震災子ども支援ネットワーク事務局

宮崎 静香

9月13日に東日本大震災子ども支援ネットワークの主催による第5回東日本大震災子ども支援意見交換会が衆議院第二議員会館1F多目的会議室で行われた。今回は被災地で行われる学習支援を中心とした取り組みについて考えるために、被災地で子ども達の支援にあたるNGOやNPOから政府・国の支援課題支援について現地からの報告を受け、今後の課題について含めた情報・意見交換が行われた。当日は、衆・参の国会議員5名を含め合計65名の参加であった。

<報告>

1. 宮城県女川町教育委員会の村上善司さんからの報告

女川ではカタリバによる向学館が学習支援を実施しているが、そこへやって来る子どもたちは問題がないが、来ていない子ども達が「もういい!」といった投げやりな態度を見せるようになり、子ども達の学習意欲に差が生じてきている。今、置かれている状況に対して何かできるとすれば、当然これは学校教育でどこまで指導できるか、そして、社会教育の枠組みの中で、どうバックアップしていくかという問題につながってくる。

2. 岩手県釜石市教育委員会の白石健介さんからの報告

釜石市では中高生のための学習支援事業「スクラムスクール」を公益社団法人青年海外協力協会(JOCA)の協力を得て実施。スクラムスクールは強化学習事業と社会学習事業の大きく2つに分かれ、前者は教室型の部屋にで、いつでも勉強できる。後者はフィールドを教室の外とし、釜石市内での色々な体験を通じて、釜石市との絆、そして家族との絆を深めてもらおうというものである。

3. ビーンズ福島の中鉢博之さんからの報告

親が将来の見通しを持たずに、失業したまま、仮設住宅で過ごしている姿を見る事が、子どもたちにとってはストレスとなり、自分が何に希望を持って生きて行けば良いのかと思っている。仮設住宅での支援として「うつくしまふくしま未来応援プロジェクト」を実施。遊びや学習を複合的に支えて行こうというもので、プロジェクトの目標は、子どもの学習と遊びを支援し、子どもの元気を取り戻すこと、おとなを元気にすること、おとなが子どもたちに関心を持ち寄り添える地域をつくること。

4. キッズドアの片貝英行さんからの報告

昨年は岩手、宮城、福島三県と東京都に非難されている方々へ、小学校の放課後の見守りプラス学習の補助と、中学校や教育委員会と連携し3年生の受験対策講座を実施。南三陸町の学童保育は有料で、条件があって活用できない家庭もあり、支援を受けられない子どもたちにイレギュラーで事業を実施。震災等で困難を抱えた子どもへの学習支援は、仙台市の教育委員会と連携。沿岸部に住んでいた時には成績優秀であった子が、仙台に来てから自分の学習能力に自信を失い、心を病んでいる姿が見受けられる。

5. 子ども福祉研究所の森田明美事務局長からの報告

ゾンタハウスでは、学習スペース「おらーほ」と「街かどギャラリー」が活動。「おらーほ」は、子どもたちの無料の居場所で、最初はおやつ付き自習室から、奨学金、軽食の提供、学習支援へ発展。最近では家族支援が始まっている。震災から1年半が経過し、辛い気持ちになる保護者も居り、授産的事業を負担のない形で展開。スタッフ7名を短時間の低賃金で雇用している。当初は国からの補助金を検討したが、町が特定のNPOや団体を認められないという判断から断念した。震災前からあった児童館、学童保育や保育所などは復興するが、既存の事業ではない中高校生や若者たちが対象の支援はほとんどが展開出来なくなってしまう。